

2008 年 9 月 29 日

ザ・プリンス パークタワー東京

京都議定書で定められた日本の温室効果ガス排出削減達成に貢献！！

カーボンオフセット・ステイプラン

期間:2008 年 10 月 1 日(水)～2009 年 3 月 31 日(火)

ザ・プリンス パークタワー東京(住所:東京都港区芝公園 4-8-1、総支配人:中屋 恵久男)では、本年 2 月より販売をしてきたカーボンオフセット・ステイプラン(温室効果ガス排出削減に貢献できる宿泊プラン)を継続して販売いたします。

1 室 1 泊につき 500 円をお客さまからお預かりし、ホテルも同等の金額をプラスして排出権の購入に充てます。

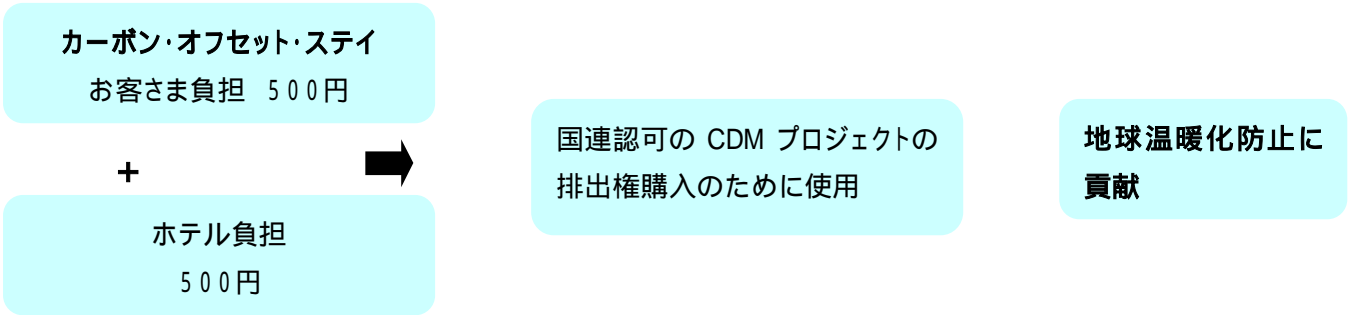
「クリーン開発メカニズム(CDM)」から得られる排出権の取得・償却を行うことで、京都議定書で定めた日本の温室効果ガス排出量削減目標であるマイナス 6%の達成に貢献し地球温暖化防止に寄与します。



ザ・プリンス パークタワー東京では、省エネをはじめとする様々な環境対策を行ってきました。
本年 2 月からは、カーボンオフセットの仕組みを利用して温室効果ガス削減に貢献する宿泊プランを販売してまいりました。
このプランは、本年 7 月に開催された洞爺湖サミットに代表されるように、世界的な環境保護に対する関心の高まりを受けて、約 400 室 750 名のお客さまにご利用いただきました。
また、この様な取り組みは、ホテル業界では初の試みで、多くのお客さまから賛同を得られたこともあり、今後も引き続き「カーボンオフセット・ステイプラン」の販売を継続してまいります。

なお、今回の活動でお客さまからお預かりした資金についてはホテルも同額の負担をし、「クリーン開発メカニズム (CDM)」として承認されたインドの風力発電事業から排出権を取得・償却することにより、京都議定書で定めた日本の温室効果ガス排出量削減目標であるマイナス 6 % の達成に貢献し地球温暖化防止に寄与してまいります。

貢献の概要



期間: 2008年10月1日(水) ~ 2009年3月31日(火)

料金: 1 室

	日 ~ 木曜日	金曜日	土・休前日
デラックスツイン (1 名さま利用)	¥27,000	¥28,000	¥30,000
デラックスツイン (2 名さま利用)	¥30,000	¥32,000	¥34,000
デラックスツイン (3 名さま利用)	¥33,000	¥36,000	¥39,000
エグゼクティブツイン・ダブル (1 名さま利用)	¥30,000	¥31,000	¥33,000
エグゼクティブツイン・ダブル (2 名さま利用)	¥33,000	¥35,000	¥37,000

料金には、1 泊、朝食、エコハンドタオル、サービス料、消費税が含まれております。

お問合せ・ご予約

ザ・プリンス パークタワー東京
〒105-8563 東京都港区芝公園 4-8-1
TEL:03-5400-1111

< 参考資料 >

ザ・プリンス パークタワー東京は、2005 年 4 月に芝公園内にある社有地を、地域に開かれた公園として整備し、「東京都市計画芝公園整備事業芝公園第 1 号地」として建てられた緑豊かなロケーションに建つホテルです。そのような生い立ちもあり、宴会場等を地下に配置し人工地盤をつくり、屋上緑化を実現、またコジェネレーションシステムの導入など環境に対しても「省エネ」という観点から積極的な取り組みを図ってまいりました。

1. ザ・プリンス パークタワー東京 エコへの取り組み

(1) 省エネルギーへの取り組み

人工地盤の緑地化・・・宴会場等のパブリックスペースを地下に設置して人工地盤上の緑化を行っています。

また、屋上を緑化にすることで断熱効率の向上による省エネルギーも図っています。

コジェネレーション・・・自家発電の排熱を、温泉の加熱、生ごみ処理・乾燥へ利用しています。

自家発電は全体の 15%を占めています。

中水利用・・・雨水、客室等の雑排水を中水処理し、便所洗浄水として再利用します。

井水利用・・・庭園の維持のための散水や、チャペル前の噴水、ラウンジ前の壁泉などに井戸水を利用。

客室の自然換気・・・エアインテーク。換気ガラリより外気を取り入れ、客室の空調負荷低減が可能。

客室フロア廊下の人感式センサー・・・人感センサーにより客室廊下照明の自動点滅を行い電力消費量の削減を行っています。

エスカレーターの自動運転・・・館内設置のエスカレーターは感知式の自動運転を行っています。

客室ファンコイルユニット・・・客室のエアコンの省エネ運転。外出時・消灯モードで温度を自動的にコントロールします。

当ホテルでは、上記に述べた「省エネ」と地球温暖化防止のための有効な手法である「カーボンオフセット」の 2 つの方法をうまく用いることで、環境に寄与していきたいと考え取り組みを進めてまいります。

2. クリーン開発メカニズム (CDM)

国連において採択され京都議定書で規定された市場メカニズムを活用する柔軟措置の一つ。

先進国が途上国において CO2 削減事業を実施した場合、その削減分を排出枠として取得し自国の削減分に充てることが認められています。

(1) 日本が発展途上国に資金や技術を提供することで持続可能な開発を支援する。

(2) 途上国において温室効果ガス削減プロジェクト(国連承認済)を協働で行なうことで CO2 を減らす。

(3) 途上国の CO2 削減分を日本の削減目標の一部に織り込むことを認める。